

品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験						
依頼者	株式会社 栗山百造						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 名称：木造建築用柱脚仕口金物 商品名：2×4用クリホールダウンⅢ KHDⅢ-15・20・25 用途：柱脚の仕口に使用する金物（アンカー型） 寸法：40×48×150mm</p> <p>2. 接合具 木ねじ：クリ鍋ビス7×120mm, 5本使用 アンカーボルト：六角ボルト M16×260mm たて枠取付用：太め鉄丸くぎ CN90 (JIS A 5508), 14本使用</p> <p>3. 枠組 たて枠：枠組壁工法構造用製材, JAS 甲種枠組材 2級, 樹種：S-P-F, 寸法：38×89mm, 3本</p> <p>4. 試験体数7体（うち1体は予備試験体） 参照：図-1～図-3（試験体の形状・寸法）</p>						
試験方法	「2007年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（発行：社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力及び基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を図-4に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力		試験剛性
	記号	番号	(Py) kN	(δy) mm	(Pu) kN	(δu) mm	(K) kN/cm
	KHD-25	0	32.4	6.7	49.6	30.0	48.4
		1	31.4	6.4	48.0	30.0	49.1
		2	31.7	5.4	48.3	27.8	58.7
		3	33.1	5.9	47.8	30.0	56.1
		4	32.8	6.3	46.5	30.0	52.1
		5	31.6	6.2	46.6	30.0	51.0
		6	31.8	6.2	47.9	30.0	51.3
		平均	32.1	6.1	47.5	29.6	53.1
	標準偏差 s	0.70	0.37	0.77	0.90	3.61	
	5%下限値	30.5		45.7		—	
	基準値	基準許容応力 20.3	—	基準終局耐力 45.7	—	基準剛性 53.1	
<p>(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり、基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また、基準剛性は試験剛性の平均値である。なお、5%下限値は次式より求めた。 5%下限値 $TL = \chi - k \cdot s$ ここに、χ：試験耐力の平均値、s：標準偏差、k：2.336 (n=6) 参照：表-1 (2/3Pmax時, 最大荷重時及び破壊状況), 図-5 (荷重-変位包絡線の比較) 図-6 (荷重-変位曲線, 包絡線及び完全弾塑性モデル), 写真-1～写真-6 (破壊状況)</p>							
試験期間	平成22年 9月13日						
担当者	構造グループ 統括リーダー 高橋 仁 試験責任者 守屋 嘉晃 試験実施者 森田 薫, 宮下 雄磨						
試験場所	中央試験所						